

2023年8月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年7月14日  
東

上場会社名 株式会社ANAP 上場取引所  
 コード番号 3189 URL <http://www.anap.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 家高 利康  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 管理本部長 (氏名) 竹内 博 (TEL) 03-5772-2717  
 四半期報告書提出予定日 2023年7月14日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年8月期第3四半期の連結業績(2022年9月1日~2023年5月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第3四半期	3,165	△17.3	△539	—	△566	—	△588	—
2022年8月期第3四半期	3,828	△0.4	△253	—	△267	—	△315	—

(注) 包括利益 2023年8月期第3四半期 △588百万円( —%) 2022年8月期第3四半期 △315百万円( —%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第3四半期	△117.35	—
2022年8月期第3四半期	△69.07	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第3四半期	2,286	△318	△14.1
2022年8月期	2,569	103	3.9

(参考) 自己資本 2023年8月期第3四半期 △321百万円 2022年8月期 99百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年8月期	—	0.00	—	—	—
2023年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,371	△13.6	△639	—	△699	—	△724	—	△143.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2023年7月14日)公表いたしました「2023年8月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 -社(社名) - 、除外 -社(社名) -

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年8月期3Q	5,474,800株	2022年8月期	4,974,800株
② 期末自己株式数	2023年8月期3Q	345,707株	2022年8月期	345,707株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2023年8月期3Q	5,017,779株	2022年8月期3Q	4,564,171株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報)	8
(収益認識関係)	10
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（自 2022年9月1日 至 2023年5月31日）における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響が収束に向かい、経済活動は緩やかな回復基調で推移しました。一方で、ウクライナ情勢の長期化等に伴うエネルギー資源や原材料価格の高騰、米国における金融不安など複合的な要因から依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が属するカジュアルファッション業界におきましては、社会活動の正常化が進み「お出かけ需要」が高まったことから、ショッピングセンターやファッションビルなどの商業施設に復調傾向がみられ、商品調達における海外サプライチェーンの動向も徐々に回復してきておりますが、生活必需品の物価上昇や原材料の高騰、継続的な円安など引き続き経営環境へのマイナス要因も散見されております。

このような状況の下、当社は、引き続き商品戦略の強化と在庫の適正化等に取り組みました。主力の店舗販売事業においては、制限緩和による人流増加の影響等により改善傾向がみられることに加え、既存店のアウトレット化や催事出店によるアウトレット店舗の増設などにより、在庫適正化に向けて効果を発揮してきております。もう一方の主力であるインターネット販売事業においては、在庫の販売を優先したことや、十分な広告宣伝活動を実施してこなかったことなどから売上・利益ともに厳しい状況が継続しました。

また、2022年8月に始動した「Re-Born Plan」プロジェクトでは、外部コンサルの協力を得ながら商品戦略及びマーケティングの強化に注力しております。本プロジェクトではブランド力強化を掲げており、在庫適正化を優先しつつもアウトレット専門店及びアウトレット専用サイトを設置することで、ブランドの毀損を回避しております。これらの施策でMD強化や物流の最適化も含めた抜本的な改革を図ることで、第4四半期以降に一定の成果が現れると期待しております。これに加え、5月に入り価格競争力があり迅速な仕入れが可能な中国広州での直接仕入れが再開できたことも、今後の業績回復に寄与すると考えております。

当社は、2023年5月12日付「株式会社ネットプライスとの資本業務提携契約の締結に関するお知らせ」及び「株式会社ピアズとの資本業務提携の解消、株式の売出し及び主要株主の異動に関するお知らせ」にて公表した通り、新たに株式会社ネットプライス（以下、ネットプライス社といたします。）と資本業務提携契約を締結いたしました。今後はネットプライス社の支援の下、主力事業であるインターネット販売事業の立て直しを図るとともに、更なる資本政策の実行についても早急に検討してまいります。同時に、2022年10月に締結した株式会社ピアズ（以下、ピアズ社といたします）及びジェミニストラテジーグループ株式会社（以下、ジェミニ社といたします。）との資本提携を解消し、ピアズ社が保有していた当社株式については同社よりネットプライス社に譲渡されております。なお、ピアズ社及びジェミニ社と別途締結している業務委託契約による人的関与を含めた事業支援は継続しており、両社とは引き続き良好な関係を続けてまいります。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高3,165百万円（前年同四半期比17.3%減）となりました。売上高が減少したことによる売上総利益の減少の影響を受け、営業損失539百万円（前年同四半期は営業損失253百万円）、経常損失566百万円（前年同四半期は経常損失267百万円）となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失588百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失315百万円）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。なお、報告セグメントの区分方法の変更については「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報)」をご参照ください。

#### (店舗販売事業)

店舗販売事業につきましては、制限緩和による人流増加の影響により売上高は回復傾向がみられるものの、在庫消化に注力したことにより売上高は低調に推移し、セグメント損失は拡大しました。

以上により、売上高は2,126百万円（前年同四半期比4.5%減）、セグメント損失は177百万円（前年同四半期はセグメント損失0百万円）となりました。

#### (インターネット販売事業)

インターネット販売事業につきましては、ファッションECサイトのサービス競争激化の影響もあり売上高が低迷しております。そのような中、値引き販売の抑制やアウトレットサイトの立上げなど、事業としての収益性を高める施策を行っておりますが、その効果は限定的となりました。

以上により、売上高は919百万円（前年同四半期比37.9%減）、セグメント損失は151百万円（前年同四半期はセグメント損失94百万円）となりました。

(卸売販売事業)

卸売販売事業につきましては、売上高は微減にとどまったものの、当期よりライセンス事業との経費配分を適正化したことから黒字転換しております。

以上により、売上高は62百万円（前年同四半期比3.3%減）、セグメント利益は3百万円（前年同四半期はセグメント損失7百万円）となりました。

(ライセンス事業)

ライセンス事業につきましては、学用品などの季節性需要が好調に推移したことなどから、売上高が増加しております。なお、前述の通り、当期より卸売販売事業との間で経費配分の見直しを行ったことから、セグメント利益は減少しております。

以上により、売上高は37百万円（前年同四半期比14.4%増）、セグメント利益は27百万円（前年同四半期比10.0%減）となりました。

(メタバース関連事業)

メタバース関連事業につきましては、新規事業として当社が獲得した同事業に関する知見を他社に展開するコンサルティング業務を中心に収益化を進めておりますが、主力事業の立て直しを優先したことから売上収益ともに低調に推移しました。

以上により、売上高は7百万円（前年同四半期比37.6%減）、セグメント利益は0百万円（前年同四半期比92.9%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は1,549百万円となり、前連結会計年度末に比べ261百万円減少いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が11百万円、商品及び製品が148百万円、原材料及び貯蔵品が6百万円それぞれ増加した一方で、現金及び預金が447百万円減少したことによるものです。

### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は737百万円となり、前連結会計年度末に比べ21百万円減少いたしました。これは、有形固定資産が9百万円増加した一方で、無形固定資産が9百万円、敷金及び保証金が21百万円それぞれ減少したことによるものです。

### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は1,828百万円となり、前連結会計年度末に比べ49百万円減少いたしました。これは主に、買掛金が107百万円、賞与引当金金が7百万円、資産除去債務が1百万円それぞれ増加した一方で、短期借入金が141百万円、未払法人税等が5百万円それぞれ減少したことによるものです。

### (固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は776百万円となり、前連結会計年度末に比べ188百万円増加いたしました。これは、長期借入金が200百万円増加した一方で、資産除去債務が5百万円減少したことによるものです。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は△318百万円となり、前連結会計年度末に比べ421百万円減少いたしました。これは主に、第三者割当増資により資本金及び資本剰余金がそれぞれ83百万円増加した一方で、親会社株主に帰属する四半期純損失計上に伴い利益剰余金が588百万円減少したことによるものです。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間までの業績動向を踏まえ、2022年10月14日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日（2023年7月14日）公表の「2023年8月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

### (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	919,682	472,556
受取手形及び売掛金	212,645	224,503
商品及び製品	609,378	757,432
原材料及び貯蔵品	1,868	7,978
その他	67,681	87,443
貸倒引当金	△617	△799
流動資産合計	1,810,638	1,549,115
固定資産		
有形固定資産	286,458	296,214
無形固定資産	54,047	44,591
投資その他の資産		
敷金及び保証金	325,058	303,656
その他	93,368	93,220
投資その他の資産合計	418,426	396,876
固定資産合計	758,932	737,682
資産合計	2,569,571	2,286,797
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	91,338	199,212
短期借入金	1,591,193	1,450,000
未払法人税等	15,292	9,535
賞与引当金	8,750	16,250
資産除去債務	2,705	4,537
その他	169,407	149,337
流動負債合計	1,878,688	1,828,873
固定負債		
長期借入金	300,000	500,000
退職給付に係る負債	113,072	112,623
資産除去債務	141,323	135,622
その他	33,040	27,855
固定負債合計	587,437	776,101
負債合計	2,466,125	2,604,974

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年5月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	439,365	522,865
資本剰余金	750,076	833,576
利益剰余金	△894,492	△1,483,351
自己株式	△195,430	△195,430
株主資本合計	99,518	△322,340
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	363	629
その他の包括利益累計額合計	363	629
新株予約権	3,563	3,534
純資産合計	103,445	△318,177
負債純資産合計	2,569,571	2,286,797

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年5月31日)
売上高	3,828,912	3,165,979
売上原価	1,701,000	1,462,418
売上総利益	2,127,912	1,703,561
販売費及び一般管理費	2,381,708	2,243,347
営業損失(△)	△253,796	△539,786
営業外収益		
助成金収入	5,073	645
その他	2,135	2,702
営業外収益合計	7,208	3,348
営業外費用		
支払利息	4,311	7,442
株式交付費	4,299	13,308
為替差損	8,518	1,869
持分法による投資損失	—	2,096
その他	3,293	5,540
営業外費用合計	20,422	30,256
経常損失(△)	△267,010	△566,694
特別損失		
減損損失	4,623	15,648
投資有価証券評価損	26,000	—
特別損失合計	30,624	15,648
税金等調整前四半期純損失(△)	△297,634	△582,343
法人税、住民税及び事業税	6,909	7,184
法人税等調整額	10,721	△667
法人税等合計	17,631	6,516
四半期純損失(△)	△315,266	△588,859
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△315,266	△588,859



四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)
四半期純損失(△)	△315,266	△588,859
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	115	266
その他の包括利益合計	115	266
四半期包括利益	△315,150	△588,593
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△315,150	△588,593

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は2022年10月31日付で、株式会社ピアズから第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が83,500千円、資本剰余金が83,500千円増加し、当第3四半期連結会計期間末における資本金が522,865千円、資本剰余金が833,576千円となっております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる当第3四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年9月1日 至 2022年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	店舗販売 事業	インターネット 販売事業	卸売販売 事業	ライセンス 事業	メタバース 関連事業	計			
売上高									
レディース カジュアル	1,318,712	1,023,005	34,942	—	—	2,376,660	1,931	—	2,378,592
キッズ・ジュニア	904,081	429,104	29,964	—	—	1,363,150	4	—	1,363,155
雑貨・メンズ	3,153	2,434	7	—	—	5,596	—	—	5,596
その他	231	26,017	—	32,819	12,500	71,569	10,000	—	81,569
顧客との契約から 生じる収益	2,226,178	1,480,562	64,915	32,819	12,500	3,816,976	11,936	—	3,828,912
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	2,226,178	1,480,562	64,915	32,819	12,500	3,816,976	11,936	—	3,828,912
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,226,178	1,480,562	64,915	32,819	12,500	3,816,976	11,936	—	3,828,912
セグメント利益又は 損失(△)	△635	△94,463	△7,195	30,208	11,169	△60,916	7,437	△200,317	△253,796

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、重要性が乏しい構成単位であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用200,317千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等における一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年9月1日 至 2023年5月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	店舗販売 事業	インターネット 販売事業	卸売販売 事業	ライセンス 事業	メタバース 関連事業	計			
売上高									
レディース カジュアル	1,269,160	611,184	11,377	—	—	1,891,722	5,277	—	1,897,000
キッズ・ジュニア	854,923	294,031	51,404	—	—	1,200,360	6	—	1,200,366
雑貨・メンズ	2,727	131	—	—	—	2,859	—	—	2,859
その他	28	13,835	—	37,538	7,800	59,202	6,551	—	65,753
顧客との契約から 生じる収益	2,126,840	919,183	62,782	37,538	7,800	3,154,144	11,835	—	3,165,979
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	2,126,840	919,183	62,782	37,538	7,800	3,154,144	11,835	—	3,165,979
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,126,840	919,183	62,782	37,538	7,800	3,154,144	11,835	—	3,165,979
セグメント利益又は 損失(△)	△177,086	△151,141	3,834	27,196	796	△296,399	8,210	△251,597	△539,786

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、重要性が乏しい構成単位であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用251,597千円が含まれております。全社費用は主に報告セグメントに帰属しない当社の管理部門等における一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「店舗販売事業」セグメントにおいて、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては15,648千円であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、2020年8月期連結会計年度以降3期連続で、営業損失・経常損失・親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、2019年8月期連結会計年度以降4期連続で、営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスを計上しております。当第3四半期連結累計期間においてもその状況は継続しており、このことは継続企業の前提に重要な疑義を生じさせる事象又は状況であるとの認識であり、早期に是正すべく以下の施策を実施しております。

#### ①資金繰りについて

2022年8月以降、株式会社商工組合中央金庫と資本金劣後ローン3億円および株式会社りそな銀行と分割実行確約ローン2億円の借入契約を締結し、資金調達を実施しております。また、第三者割当による新株式発行及び新株予約権発行で175百万円の調達を完了しております。当第3四半期連結会計期間末日時点で472百万円の現金及び預金残高を有しており、前述の施策に加えて、取引銀行との当座貸越契約においてもその未実行残高もあることから、当面の資金繰りには支障はないと考えております。

#### ②自己資本の脆弱性について

当社は、当第3四半期連結会計期間末時点で、純資産が△318百万円の債務超過の状況となっております。当社は当期中にこの状況を解消し、かつ自己資本を強化することが、現在の経営における重要課題であると認識しており、その実現に向け、第三者割当増資等の資本施策を検討してまいります。

#### ③売上高減少や収益力の低下について

2022年8月に、売上高と収益力を回復させることを目的として「Re-Born-Plan」プロジェクトを組成し、商品戦略やマーケティングを強化することにより、商品力とブランド力の向上を図っております。本プロジェクトによる効果は、当第4四半期以降に一定程度発揮できると期待しております。さらに、前々連結会計年度から取り組んできた費用削減の取組みを継続するとともに、メタバース関連事業等の新規事業の収益化により、持続可能な事業への転換を図ってまいります。

以上により、当社グループは、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。